

# I 研究の概要

## 1 研究主題

### 「いのち輝く清和っ子」の育成を目指して ～育ちや学びをつなぐ保、小、中連携～

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会的要請から

熊本県教育振興基本計画第2期「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」においては、地域の子どもたちが一貫性のある、より良い環境で育つために、幼稚園・保育所等、小学校、中学校の連携が必要であると謳われ、幼稚園・保育所等、小学校、中学校の連携を推進することが掲げられている。

また、熊本県就学前教育振興「肥後っ子かがやきプラン（改訂版）」の基本目標には、子どもが「『生きる力』の基礎」を身に付け、たくましく心豊かに育つために、家庭、幼稚園・保育所等、地域社会が、「人と人」「心と心」をつなぎ合いながら教育機能を高める環境づくりが挙げられている。その中では、子どもたちの育ちや学びは連続したものであることを踏まえ、幼稚園・保育所等、小学校、中学校が互いの保育・教育内容や指導・援助方法を理解し合い、幼児期から小・中学校の15年間の成長、発達を見通し、同じ方向性をもって保育・教育を推進していくことが期待されている。

さらには、近年、各機関の接続において起こる「小1プロブレム」、「中1ギャップ」等の子どもの不適応や問題行動などを未然に防止するためには、幼稚園・保育所等、小学校、中学校の一層の連携のもと、円滑な接続と子どもの育ちや学びをつなげる保育・教育活動の推進と協働が求められている。

### (2) 地域の特徴から

本地域は、阿蘇外輪山の一角をなし、起伏に富んだ高原地帯や澄み切った清流が流れる緑川の渓谷など自然が豊かである。地域住民の方々は素朴で温かく、穏やかで人情味があり、それぞれの地区の特徴を生かした教育活動が営まれてきた歴史がある。しかし、少子化や社会情勢等の急激な変化により学校の統合が進み、現在は、保育所が2所、小学校が1校、中学校が1校となっている。子どもたちは、保育所、小学校、中学校をほとんど同じ集団で過ごしながらか純朴に育ってきている。本地域では、同じ環境でともに学び育つことができる特徴を生かすとともに、目指す子ども像を共有し、保育所、小学校、中学校の連携した取組を行っていくことにより、子どもたちに生きる力を確かに育むことができるものと考ええる。

また、本地域では、清和文楽や和太鼓などの伝統芸能が受け継がれており、子どもたちは幼い頃から地域の伝統文化に親しんでいる。地域の文化を支え、受け継いでいる人々と改めて出会わせ、継続的・系統的に学ぶ場を保障することは、ふるさとに誇りをもち、自分らしく生きる力を育むために重要なことであると考ええる。

### (3) これまでの連携及び子どもの実態から

本地域では、これまでも保育所と小学校、小学校と中学校での連絡会や交流活動が行われてきた。しかし、地域で育てたい力や目指す子ども像などを共有するようなことは

なかった。また、それぞれの職員が、他の機関における指導内容や指導法及び子どもの発達段階について十分に理解し、15年間の育ちを見通して、育ちや学びの連続性を踏まえながら保育・教育に取り組むという意識もあまり高くなかった。

子どもたちは、明るく素直であり、様々な活動に真面目に取り組む姿勢がある。一方で、仲間と切磋琢磨したり、積極的に新しいことに挑戦したりすることは少ない。小集団の中で育ってきた子どもたちが、新たな場所や環境で生活したり、学んだりするときに、そこに適応しながら力を発揮していくという面では、課題が残っている。また、発達段階に応じた基本的な生活習慣や基礎学力の定着、自尊感情の醸成等にも課題が見られる。

以上のようなことから、生涯をとおして子どもたちが自己実現に向け、輝きながら自分らしく生きていく力を育むためには、保育所、小学校、中学校で子どもの育ちや学びに関する課題や目指す子ども像を共有し、連携して育ちや学びの連続性を踏まえた保育・教育活動を推進することが必要であると考え、本主題を設定した。

### 3 研究主題のとらえ方

「いのち輝く清和っ子」とは、『この宇宙に煌めく星のように輝きながら、将来に夢をもち、いきいきと自分らしく生き抜いていく子ども』である。

「育ちや学び」とは、『様々な環境（地域、家庭、保育所、学校）の中で培ってきた、生きていくための基盤となる素地や力』である。

「つなぐ」とは、『育ちや学びの連続性を踏まえ、これまでの成果や課題を継承し、目指す子ども像の実現に向け育む力を明確にし、実践化していくこと』である。

子どもたちは清和地域の将来を担う大切な宝であり、一人一人に[知]・[徳]・[体]のバランスのとれた「生きる力」を育み、互いに自分のいのちを輝かせながら、いきいきと生活できるよう育てていかなければならないと考える。

そのためには、地域における保育や教育の各機関が連携し、子ども一人一人の育ちや学びをつなぐことが大切であり、同時に家庭や地域の協力を得ながら地域の良さや教育力を生かし、家庭教育力の向上や地域の教育力の活性化につなげることも必要不可欠なことであると考える。

### 4 研究の仮説

保育所、小学校、中学校が交流を深めて連携し、家庭や地域とのつながりを強め、地域における教育力の活用を図りつつ、次の3つの視点をもとに、組織的、協働的かつ継続的な実践に取り組むことで、子どもたちに[知]・[徳]・[体]のバランスのとれた「生きる力」を育み、「いのち輝く清和っ子」を育成することができるだろう。

### 視点1

#### 地域の実態に応じた連携の工夫

子どもの実態と課題をもとに、[知]・[徳]・[体]の面における「目指す子ども像」を設定し、保育所、小学校、中学校で目標連携を図り、連携カリキュラム等を活用した行動連携による実践を推進する。

### 視点2

#### 円滑な接続の推進

保育所から小学校への接続に関するカリキュラム、小学校から中学校への接続に関するプログラムを編成して活用するとともに、交流活動を工夫することで学校生活への円滑な接続と適応を図る。

### 視点3

#### 家庭・地域との連携の充実

子どもの育ちを見守り支えるための保、小、中連携協議会等を組織し、「目指す子ども像」の共有化と実現を目指し、家庭・地域と一体となった取組の推進を図り、家庭教育力の向上、地域教育力の活性化を目指す。

## 5 研究の内容

### 視点1 地域の実態に応じた連携の工夫

- (1) [知]・[徳]・[体]の面における「目指す子ども像」の設定と共有
- (2) 「目指す子ども像」の実現に向けた連携カリキュラムの編成による目標連携と共通実践
- (3) [知]・[徳]・[体]の面における「目指す子ども像」の実現に向けた研究部の設置による、保育所、小学校、中学校の組織的、協働的な行動連携

### 視点2 円滑な接続の推進

- (1) 保から小への円滑な接続を図るためのアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの編成と共通実践
- (2) 小から中への円滑な接続を図るためのアプローチプログラム、スタートプログラムの編成と共通実践
- (3) 交流活動の工夫と計画的な実践

### 視点3 家庭・地域との連携の充実

- (1) 清和地区保、小、中連携協議会の設置と活用
- (2) 清和っ子応援団づくりと活用
- (3) 家庭・地域と一体となった取組の推進

## 6 研究の組織

研究を進めるために、図1のような研究組織を整えた。

園長・校長会で研究の根幹となる方針を定め、研究推進委員会で、その方針を具体化する研究の方向や内容を協議した。研究推進委員会のメンバーは、園長、小・中学校の校長、教頭、教務主任、研究主任及び[学力充実部]・[心の醸成部]・[健康・体力部]のチーフとした。この3つの部会は、具体的な取組事項について協議、実践する組織であり、保育所、小学校、中学校の職員がそれぞれ所属している。

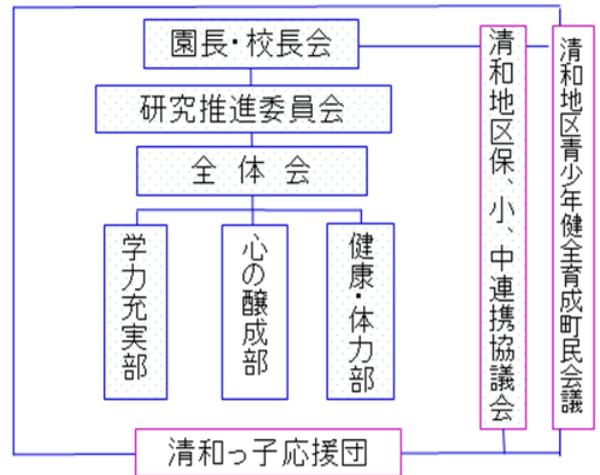


図1 研究組織

また、この研究組織を支える地域の組織として、既存の清和地区青少年健全育成町民会議の専門部に清和地区保、小、中連携協議会を位置づけた。既存の組織と新たな組織を組み合わせることをとおして、それぞれの活動をより活性化し、地域の教育力を生かすことにつなげるとともに、清和っ子応援団づくりにも取り組んだ。（18, 19 ページ参照）

## 7 研究の構想図

